

保健体育科（体育）学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
 対 象：1年〇組〇名（男子〇名・女子〇名）
 場 所：〇〇市立〇〇中学校 体育館
 指導者：教諭 〇〇 〇〇

1 内容のまとめ 「E 球技」

2 単元 「ゴール型 サッカー」

3 単元の目標

・学習指導要領解説の指導内容（四角囲み）を転記
 ・文末表現は、「～できるようにする」
 ※目標内の（ ）書きの部分は、本時で取り扱わない内容となるため、「6 全ての単元の評価規準」との整合性確認

(1) 知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、サッカーの特性や（成り立ち）、技術の名称や行い方、（サッカーに関連して高まる体力）（など）を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 サッカーでは、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。
(2) 思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
(3) 学びに向かう力、人間性等	（サッカーに積極的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを守ろうとすること）、（作戦などについての話し合いに参加しようとする）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。

4 指導にあたって

- (1) 単元観
 - ①指導者から見た特性
 - ②生徒から見た特性
- (2) 生徒観
- (3) 指導観

【(1)の記載ポイント】
 ・学習指導要領から、その単元にはどのような特性があるのかについて記載する。
 ・中学校（中3の場合は小学校及び中学校1、2年生）での学習内容について記載する。
 ・生徒に指導するにあたり、適切な単元の構成内容であることが記載されているか。
 【(2)の記載ポイント】
 ・学習指導要領の指導内容に関連した生徒の実態を記載する。（3 or 4 観点で記載）
 ・単元のどこでどのようなつまずきとなって現れているのかの現状と予想を記載する。
 ・「指導観」に記載されている手立てと連動しているか。
 【(3)の記載ポイント】
 ・生徒観で示した生徒の不十分な点を補う工夫を記載する。（3 or 4 観点で考える）
 ・単元観で示した学習内容及びその価値にせまる手段と方法を的確に記載する。

5 内容のまとめりごとの評価規準【※場合によっては省略可】

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ・球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。	○技能 ・ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。	・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようすることなどをしたり、健康安全に気を配ったりしている。

※ネット型、ベースボール型は省略

6 全ての単元の評価規準（ゴール型における全ての評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識 ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。 ・球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ・マークされていない味方にパスを出すことができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ・パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ・ボールを持っている相手をマークすることができる。</p>	<p>・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ・練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取り組みを見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ①仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ②仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。</p> <p>・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 ・作戦などについての話合いに参加しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 ①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。</p>

※「丸数字」は主に本時で取り扱う評価規準、「・」は2年時で取り扱う評価規準を示す。

【記載のポイント】

- ①全ての単元の「指導内容」から「評価規準」を作成する。（本事例はゴール型のみを記載）
- ②「指導内容」は学習指導要領解説の例示を抜粋する。
- ③「評価規準」は「指導内容」の文末表現を次のように変換する。

知識	⇒ ～について、学習した具体例を挙げている。～言ったり書き出したりしている。
技能	⇒ ～ができる。
思考・判断・表現	⇒ ～を見付けている。～を選んでいる。～に伝えている。
態度	⇒ ～しようとしている。～している。（※健康・安全は、「～している。」）
- ④本時で取り扱う内容について、丸数字などで記載する。

丸数字の評価規準を抜き出す

※中学校1年の「E球技 ゴール型 サッカー」を例として示しています。

7 単元の評価規準（ゴール型における、本時で取り扱う評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②サッカーにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>②健康・安全に留意している。</p>

8 指導と評価の計画（「時間」の○数字は本時を示す）

【指導と評価の計画】

時間		1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	10		
学習の流れ（学習過程）	0	健康観察・準備運動・前時の振り返り・本時の目標確認											
	10	オリエンテーション	ボール操作 シュート パス トラップ	ボール操作ドリル							最終リーグ戦		
	20			タスクゲーム 空間に走り込む動き	課題確認と解決の練習 ペア・チームで相互観察・助言 ICT活用で課題認識	前時のゲームの修正 最終リーグ戦							
	30	ボール慣れ	ミニゲーム1 ゲーム記録の活用	ミニゲーム2 シュート場面の創出	簡易ゲーム 人数・コート・ルール等の簡易化				まとめ 単元の				
	40		健康観察・整理運動・本時の振り返り・次時の目標確認										
	50												
評価機会	観点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	知・技	知	①				②					総括的評価	
		技			①			②	③				
	思・判・表							①	②				
主体的態度		②		①									

※「評価機会」の丸数字は、「7 単元の評価規準」に示している内容の番号

【評価方法について】

観点	評価方法
知・技	観察、学習カード、ペーパーテスト（単元・定期）
思・判・表	観察、学習カード、ペーパーテスト（単元・定期）
主体的態度	観察、学習カード

【ポイント】

- ① 3 or 4 観点のそれぞれの関連性を考慮し、バランス良く指導していく。
- ② 指導及び評価の時期はあくまで「重点的に」行う次時期である。
※実際の授業では継続指導、総括的評価を行う。
- ③ 指導内容及び評価が、1時間に多くても2つ以内に抑える。
- ④ 観察評価である「主体的態度」と「技能」が評価で重複しないようにする。
- ⑤ 評価の時期についての基本的な考え方
 - ・身につくまでに時間がかかる項目「主体的態度」、「技能」
⇒ 数時間おいて評価する。（主に観察による評価を行う）
 - ・その時間の学習状況を把握すべき項目「思考・判断・表現」、「知識」
⇒ その時間に評価する。（学習カード等で記録を取る）

9 本時案（5／10時間）

(1) 本時の目標

- <知識及び技能（知識）②> ⇒ ※○数字は、「8 指導と評価の計画」に示している内容
- ・サッカーにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、理解することができるようにする。（評価：本時）
- <知識及び技能（技能）③> ⇒ ※○数字は、「8 指導と評価の計画」に示している内容
- ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができるようにする。（評価：7／10時間）

(2) 本時の評価

- <知識・技能（知識）②> ⇒ ※○数字は、「8 指導と評価の計画」に示している内容
- ・サッカーにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。

【ポイント】

- ・学習活動が「指導内容」を押さえているか。
- ・評価の観点を見取るための活動が設定されているか。

(3) 本時の展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・あいさつ 2 準備運動 3 本時の説明	○出席確認を行い、生徒の健康状態を把握 ○前時の振り返りを行い、本時のねらいを説明
	【学習内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを持っていない時に、ボールとゴールが同時に見える場所に動き、パスをもらうこと。 ・そのために、必要な技術の名称、ポイントなどを理解すること。 	
なか 30分	4 ボール操作ドリル ・コーンドリブル ・2人組でのボールタッチ ・2人組での対人パス 5 タスクゲーム 「2vs1 パスゲーム」 ・ボールとゴールが同時に見える場所で仲間からパスを受ける 6 タスクゲーム 「パス&シュートゲーム」 ※守備者はコーンで代用可	○コーンの近くをドリブルできるよう指導 ○パスを出す、受ける意思表示をするよう指導 ○パスをするとき、見方の状況を見てからパスをするように指導 ○パスを受けるとき、ボールとゴールが同時に見える場所で受けるように指導。その際、ボールを持っていない時の動きが大切であることを伝える 指導：技能③ ○シュートのため、ボールとゴールが同時に見える場所に動いてパスをもらう場面を想定して指導 ・スルーパス→守備者の背後のスペースへ攻め込む ・センタリング→サイドからゴールへ攻め込む
	【発問】 味方からパスをもらいシュートを打つためには、どのように動いたらよいだろう？	
	予想される生徒の反応 <ul style="list-style-type: none"> ・守備者の背後から空いたスペースへ走り込む ・味方同士でパスを受ける（出す）意思表示をし合う。 	指導：知識② ○発問後に自チームの動きの変容を確認できるように指示 ○動きに必要な技術のポイントについて説明 ○タスクゲームで学んだ動きを活かせるよう指導
まとめ 10分	7 ミニゲーム 8 整理運動、健康観察 9 本時の振り返り 10 次時の確認、あいさつ	○生徒に本時の学習の振り返り、自らの学習成果や課題を確認するよう促す ○本時の学習のポイントを振り返り、説明 評価：知識②【観察、学習カード】 ○次時の授業のねらい等を説明